

教材教具および題材	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
ぼくの街 わたしの街	高	美術 Ⅱグループ (美術)	福島孝一郎

1. 生徒の実態

- 言葉によるコミュニケーションをすることが難しい生徒が多く、道具を使用したり、作品を制作したりする上で教師の支援が必要である。
- 落ち着いて作業したり、安全を確保（ハサミの使用など）したりするため、教師と生徒が1対1で取り組む必要がある。

2. ねらい

- 根気よく、木片の色塗りや接着をする。
- 建物をイメージしながら、4色に塗った木片を組み合わせて楽しみながら街を作成する。

3. 内容：「ぼくの街 わたしの街」

- (1) 土台にするダンボールに、白色の絵の具を塗る。
- (2) ダンボールの土台に、フェルトで道を貼り付ける。
- (3) さまざまな形の木片に4色（赤色、青色、黄色、緑色）の絵の具を塗る。
- (4) 建物をイメージしながら、色を塗った木片を接着剤で土台に貼り付けていく。

4. 成果と課題

1学期は平面の作品が多かったため、2学期は立体作品を経験させたいと考え、木片を使った街作りに取り組んだ。木片の色塗りでは、教員と一緒に根気強く丁寧に色を塗っていくことができた。

接着剤を使った組み立てでは、木片の形と色を考えながら個性的な形の建物を作っていくことができ、一人一人が工夫した町並みにすることができた。

課題としては、一人で集中して作業できる時間を増やし、自分の個性をより作品に反映していけるよう支援していくことである。そのためには、教材を精選し、生徒にとって分かりやすく作りやすい作品作りをする必要がある。

